

私たちのふるさとを訪ねて



鷹巣民謡クラブのみなさんによる指導（体育祭の踊りの練習）

糸崎の仏舞（ほとけまい）

春四月（十八日）、桜吹雪のもと、本堂前の石舞台上、舞仏（まいぼとけ）八人を中心に、古風な太鼓と鉦（かね）の合図で、笛のリズムに合わせて、ゆっくり舞いが始まります。千二百年ほど前に、法要の際に、天女が紫雲にのって舞い降り、喜びの舞いとして、仏舞が伝えられたということです。



菘浦太鼓（体育祭にて）

夜網節（よあみぶし）

千二百年前のこと、免鳥の地引き網を人々がひきあげるのに、七日七夜もかかって苦労したそうです。念願の網をひきあげた時、その中に立派な金色の仏像が入っていたそうです。この網をひく時に歌った歌が夜網節になったということです。

「アア ヨイサ ヨイセ 声の
高いは 波の音 波の音……」



菘浦太鼓

昭和五十年代になって、菘浦町内の若い人たちが、御輿（みこし）の渡御（とぎよ）に加えて太鼓を始め、これを神社に奉納するようになりました。今は、技能を習得した大人から、小・中学生にも伝授しており、青年や子ども達が太鼓を打ち、力強い響きが四方にこだまする菘浦太鼓に成長しました。